

平成 27 年度 学内教育 G P プログラム 事業経費計画書 (継続型)

学 長 殿

申請者 (プログラム代表者名)

氏 名 半田 智久

(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

職名 教育を担当する副学長

氏名 耳塚 寛明

事業名称	学生主体の新しい学士課程の創成 -21 世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育- のうち、24 時間利用できる授業・学修支援システムの整備と定着
取組代表者名 担当者名	代表：半田智久 担当：石田千晃
事業内容	<p>本事業内容は、学修支援システム Plone の運用に関わるものである。本事業は、オープンソースの CMS、Plone を本学教育開発センターがカスタマイズし、学修支援システムとして活用しているもので、2 学期制の前学期、後学期で、それぞれ、800 名～1000 名の学生が利用している。</p> <p>学修支援用の Plone は、申し込み制で、利用申し込みがあった教員の授業サイトを、プログラムを使い生成させる作業が発生する。2014 年からは自己登録制を採用し、履修登録完了前の約 3 週間もオンラインでの資料配付やコメントペーパーの作成ができるようにしている。授業サイト生成作業や、自己登録データ処理には、エクセル等の基本的なアプリケーション活用スキルが求められるだけでなく、データベースの概念やプログラムの実行スキルなどの知識が求められ、これらのスキルがある AA を必要としている。</p> <p>また、年に数回 FD として実施している Plone 説明会での補助、及び、通常授業に活用している教員、学生からの問い合わせに対応する必要がある。そのため、Plone の構造をよく理解し、作業内容を的確に把握できる AA を必要としている。さらに、学修支援 Plone 以外にも総合学修センターの情報提供サイト、リーダーシップセンターのイベント申し込みサイト等に Plone は活用されているため、随時、各センターにおけるカスタマイズ等のニーズに対応していくためにも、補助要員が必要である。</p>

平成 26 年度 学内教育 G P プログラム事業（継続型）の
現在の進捗状況と今後の事業計画書

取組代表者 半田 智久

事業名称	<p>学生主体の新しい学士課程の創成（21 世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育）のうち、24 時間利用できる授業・学修支援システムの整備と定着</p>
現在の進捗状況	<p>＊ 26 年度に助成を受けている課題については、事業計画に即して成果を詳細かつ客観的に記載して下さい。</p> <p>(1) Plone の管理運営 授業サイトの初期生成作業や自己登録制データの処理などは、管理者権限でシステムを動かす部分となるため、引き続き、事業担当者と AA の二人体制で行う必要がある。今後も、どちらか一人に不慮の事態が起こった場合でもシステムが問題なく動くよう、常に複数体制で管理を行うことがのぞましい。</p> <p>(2) 教員や学生への個別対応 特に、アンケートや一斉送信メールフォームの作成などの作成方法はマニュアル化し公開しているものの、若干 Plone の利用スキルを求められるため、授業担当教員、TA、学生だけが独立して使える状況にまだなっておらず、Plone の操作に慣れた AA の補助を必要としている。</p> <p>(3) PDF、ibooks、epub、ビデオなどの各種マニュアルを整備し、PDF、ibooks、epub 形式のマニュアルは、お茶の水女子大学 E-book サービスにて公開した。現時点で作業は終了している。（第 1 巻 2014 年 3 月、第 2 巻 2014 年 5 月）</p>
今後の事業計画	<p>(2) 「教員や学生への個別対応」で、今現在は、やや高度な IT スキルを持った AA の力に頼った運用を行っているが、今後は、ワードやエクセル等の標準的な操作が行える人であれば誰でも作業が可能のようにさらに整備を進めて行く。実際に、センター系の業務（総合学修支援センターやリーダーシップセンター）では、IT スキルの専門能力を持っていない人でも Plone を操作し仕事が回せるレベルにまで到達しているため、今後も広く教員向けの FD や学生向け説明会などを継続しながら CMS を業務や学修に使いこなすスキルアップの機会を設けていく。</p> <p>また、本事業を通じて、高等教育におけるオンラインを活用した学習・学修環境の開発、検証を引き続き積極的におこなっていきたい。そのためには、成果を内外に発信し学内における実践内容を吟味する必要がある。そのような機会は、直近では、2015 年 6 月に Plone Symposium Tokyo（お茶大が会場になる予定）があるため、このような国際会議に参加し、そこでの議論を積極的に活用し、さらなる FD や学修環境改善の素材として、本事業を活かしていきたい。</p>

※ この様式は適宜広げて（本用紙を含め 2 枚以内）記入してください